



次世代スギ精英樹品種見本林
(2016.03.31 植栽、2020.09.25 撮影)

次世代スギ精英樹は、林業試験場が開発したスギの新品种です。品種開発にはDNA分析等も一部取り入れた結果、従来の品種等と比べ、成長が早いだけでなく、材の強度が高い、花粉が少ない等の優れた特性を持つことから、早期の普及を望まれています。

このため、林業試験場では、次世代スギ精英樹の普及に向けて、現地植栽試験地や品種見本林(表紙画像)を設置する一方で、採穂園の造成等を進めた結果、令和3年2月から穂木の供給を開始することとなりました。この穂木から苗木が育成され、実際に山林に植栽されるのは令和4年の春以降になります。が、低コスト林業の実現に資する等、林業の振興に貢献するものと期待されます。

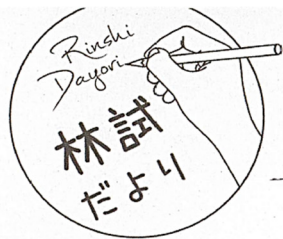


コンテナ苗



植栽試験地での生育状況

次世代スギ精英樹(次世代スギ)は、「サガンスギ」の研究開発段階の呼称です。



林業試験場研究フォーラム 2020 を開催しました

令和2年(2020年)12月23日に、林業試験場等において、次世代スギ精英樹をテーマに県内の森林・林業関係者を参集し「林業試験場研究フォーラム 2020」を開催しました。次世代スギ精英樹とは、成長が早い、強度が高い、花粉が少ない等の特性を持つ品種として半世紀の歳月をかけ佐賀県が開発し、この春から穂木の供給が開始されるものです。

午前中は唐津市七山にある次世代スギ精英樹の造林試験地に参加者を案内し、樹高や樹形等について現在普及している精英樹との違いを確認しました。

午後からは林業試験場の講堂にて報告会を実施しました。

まず、研究開発担当 江島特別研究員より次世代スギ精英樹の開発過程、DNA 情報による品種群の整理、環境効果の見える化、成長予測モデル、木材強度特性等について説明しました。次に、普及指導課 山口課長より次世代スギ精英樹を活用した施業モデルや収支予想等について説明しました。最後に、普及指導課 宮崎係長より穂木供給予定品種、採穂園の造成、採穂台木の管理状況、穂木の供給見込み等について説明しました。特に施業モデルや収支予想等については収益に直結することから、参加者の関心が高かったようです。

その後、場内視察として次世代スギ精英樹のコンテナ苗育成状況や採穂園の造成状況等をご覧いただきました。参加者は、特にガラス温室でのコンテナ苗の育苗技術や検定林から採取した次世代スギ精英樹の樹幹解析(円盤)等に関心を持たれていたようです。

出席者からは、「学術的なことから実用的な内容まで発表があり大変参考になった」、「実用化に向けたイメージができた」といった声が聞かれました。

苗木生産者や林業関係者の皆様と連携しながら次世代スギ精英樹を用いた新しい林業をスタートし、佐賀県の森林づくりに貢献できるよう、施業モデルの開発、台木の育成、苗木の生産技術の確立等に引き続き取り組みます。

